



麦の郷 通信

“麦の郷とは” 住民のニーズから
生み出され、住民の手によって育てられる

January 2019

ソーシャル ファーム ピネル/くろしお作業所/麦の郷訪問看護ステーション/麦の郷居住福祉事業所/はぐるま共同作業所/はぐるま共同作業所 和の社/はぐるま共同作業所 ラ・テール/けいじん舎/麦の郷印刷/障害者就業・生活支援センター つれもて/麦の郷 和歌山生活支援センター/麦の郷の川生活支援センター/ハートフルハウス 創/おぎピース/障害児者サポートセンター「麦の郷」/こじか園/第二こじか園/こじか親子教室/ソーシャルファームもぎたて/Po-zkk/六星舎/叶夢向/事務所/麦の郷障害者地域リハビリテーション研究所

揮毫：伊藤静美 発行/麦の郷情報管理委員会 TEL(073)474-2466 FAX(073)474-4637 〒640-8301 和歌山市岩橋643 http://www.muginosato.jp



はぐるま共同作業所
和の社

障害者就業・生活支援センター
つれもて



理事長賞

麦の郷ホームページ写真コンテスト



ポップコーンの色の鮮やかな色。
それを製造した仲間たちの自信に満ちた表情がすてきです。



キリッとした表情から、仕事への真剣さが感じられます。
きつここで製造される製品は信頼されていると思います。



私たちのめざすもの ~麦の郷4つの理念~

- 1).麦の郷は、日々学び、育み、発信し続ける人材を育成し、地域福祉の発展を目指します。
- 2).私たちは、ものづくりを通じて障害のある人と地域の共存を実現し、互いに豊かになる実践を目指します。
- 3).私たちは、社会的不利の状態におかれている人々の課題を解決するために、広範な人々をつながりを深め、ともに社会変革をめざします。
- 4).麦の郷は、全ての人々が平和で安心して暮らせる社会づくりのために人の輪を紡いでいきます。



麦の郷

新しい年を迎えるにあたって



社会福祉法人
一麦会・麦の郷
理事長 **田中 秀樹**

明けましておめでとうございます。これまでのご支援、ご協力に深く感謝申し上げます。今年もよろしくお願い致します。『笑顔と元気』おぎの郷プラン2018～2022がスタートしています。このプランには麦の郷が5ヶ年で達成する理念・目標が書かれていて、これまで制度の改正が続き厳しい状況がありましたが、一丸となつてのりこえてきました。

新しい5ヶ年プランは日本国憲法の全文からはじまっています。「日本国民は…」からはじまる日本国憲法は、国民主権、平和主義、基本的人権の3つの基本原則に貫かれており、その原則の上に麦の郷の活動があり守り発展させる義務をもっています。私たちの権利を守り、憲法に定められていることを実現することに私たち国民の不断の努力が

求められ、国民は憲法を守ることが義務とされています。

しかし、その日本国憲法を変えようとする動きが強まっています。また、すでに解釈を変えることによってこれまでの制度が歪められひずみが大きくなってきています。

相模原やまゆり障害者殺傷事件、寝屋川など私宅監置と死亡事件、優生保護法による強制不妊手術、障害者雇用の水増し問題など障害者の人権、生命に関する事件や問題が浮きぼりになり、危機的な状況にあります。また、格差が広がり貧困問題が深刻になり、さらに消費税増税が追い打ちをかけます。その背景には社会福祉や社会保障は国の責任（憲法第25条）とされていたものが、「自助、共助、公助」といつの間にか「自己責任」として国の責任が放棄されてきていること無関係ではありません。

「誰のための…」国なのか、仕事なのか？が置き去りにされてきているのではないかと思えます。

私たちには、日本国憲法や障害者権利条約という指針があります。5ヶ年プランに書かれた



麦の郷印刷
宮本 信人

還暦にあたって、人工関節の手術をして一日も早く作業所に毎日通いたいと思っています。そして健康になって元気になりたいと思っています。

毎日楽しい生活を送り、元気になって遊びたいと思います。そして、良い仲間と楽しくして仲良くしたいと思っています。



けいじん舎
田中 規夫

新年明けましておめでとうございます。私は今年、年男です。60歳になります。定年退職も迎えます。亥と同じように、まっすべに猛進していきます。今後ともよろしくお願い致します。けいじん舎でよかぜ食品で働いています。



今年の抱負

麦の郷の年男・年女



ソーシャルファームピネル
山崎 順平

ぼくは、ソーシャルファームピネルにいます。今年はいのしし年です。猪(子)の年です。



紀の川生活支援センター
清原 邦夫

曲がった事が嫌いなので、亥のようにまっすべに真面目に生きていきたいと思っています。今年で還暦になりますが、仕事も続けて頑張ります。



くろしお作業所

- 杉山 歳子
- 竹内 敏博
- 間野衣津子
- 桑原 宗紀

杉山 歳子さん

仕事を頑張ってやっていきたい。

竹内 敏博さん

作業所でいっぱい楽しい事したい。

間野 衣津子さん

みんなと仲良く楽しみたい。

桑原 宗紀さん

くろしおで毎日仕事を頑張る。毎週パセリに行くことを頑張る。



六星舎
楠本 芳美

約20年車いす生活。最近目はもさらに悪くなってきたが、作業所へ行きだして、「芳美ちゃん」と声をかけてくれる友達がいっぱいできた。その仲間と旅行にも行きたいし、仲間と共に「できる！できた！」ことを一杯見たい。チャレンジあるのみ!!



叶夢向
高松 久二

ですから、タンスちよ金をたくさんしようと思えます。仕事よりも、習字をするのが、大好きです。習字をがんばりたいです。仕事の方も努力して、まじめにはたらくたいです。

抱負…、何言ったらいいんか分からんなあ。体がだるいと思う事もあるけど、これからも仕事を頑張っていきたい。お刺身は、好きやなあ…。

今年度も職員研修の一環として9月、12月にかけて月に1回夕刻の時間に実践検討会を4回実施しました。法人内各事業所から1、2名が事業種類や職種を超えて30名前後の職員が集いレポート報告を受けて実践課題を深め合いました。

第1回は労働支援部からB型事業所(和の杜)が、「働く」を通してメンバーの発達や成長、生きがいや誇りを生みだす実践、B型事業所のあり方について報告してくれました。議論では「あたりまえ」って何?について深め、その意味合いには権利侵害するものと権利保障するものがあり、私たちは労働や生活場面においてもメンバーを主体とした権利保障する「あたりまえ」を追求していくことを確認し合いました。



実践検討会を終えて

麦の郷実践検討会

第2回は生活支援部から居住支援事業所(あいあいホーム)が、メンバーの闘病生活と命と向き合う中で支える側の葛藤や悩みを支え手同士が連携や共感できた実践を涙ながらに報告してくれました。報告中での「Mさんに『頑張れ!』が良かった?と今も自問自答する」との問いに議論を深めました。『頑張れ!』は、デリケートな言葉ではあるが、今回のように信頼関係の上での励ましの言葉であることを共感することができました。

第3回は子ども支援部からこじか園が、幼児教育無償化制度を障害のある子どもも対象と認めてもらう要望活動(県内7万筆署名)を保護者と取り組んだ実践を報告してくれました。第4回は相談支援部からサポートセンター「麦の郷」が、メンバーが65歳になるとこれまで支援を受けてきた障害福祉から介護保険優先原則の名のもとで介護保険の支援に移行させられてしまふ矛盾や問題に正面から向き合う実践を報告してくれました。第3、4回の検討会で共通して議論されたことは、家族を含む障害当事者の願いに寄り添うことを大切に、そこに不平等や人権を侵そうとする事実がある時は目を背けないこと。その事実を周囲にしっかりと伝え共感の輪を広げていくことが私たちの実践の一つであることを確認し合いました。

4回の実践検討会での学びを各事業所で再度深め合い、メンバーに寄り添う新たな実践課題を見出し、実践と運動を高め合う職員集団を作っていきたいと思えます。

(麦の郷教育研修委員会 鈴木 栄作)

むぎ・わくわくレポート

こじか園は、山口地区にあり、地域との交流としては、こじかの夏まつりで協力して頂いたり、連合自治会が主催している文化祭に職員が協力したりしています。昨年より、保護者がバザーのコーナーを作ってもらい、そして今年…子どもたちが舞台に出演しないかというお話があり、職員で話し合い5歳児が運動会で踊った「七月エイサー」を披露することにしました。本番は、多くの方々の前で、少し緊張している様子もありましたが、それぞれの力を発揮した演舞になりました。子ども達もこの経験は自信に繋がり、地域の方々にも知ってもらおう機会になりました。また、演舞を見て、温かい声をかけてくださる方もいました。昨年より、かかしコンテストにも応募させて頂いています。今後とも園児も保護者も職員も、この山口地区で地域の方々と歩んでいきたいと思っています。(こじか園 浦上 武史)



ホームページ写真コンテスト 受賞作品発表

現在麦の郷ではホームページを新しくしようと考えています。その中で、ホーム画面に「麦の郷」が伝わるような写真をのせようという事になり、各事業所から写真を募集し、コンテストを行いました。写真は、理事長と麦の郷内の各部(子ども支援部・労働支援部・就労相談支援部・地域生活支援部)にそれぞれ選んでもらい、各賞が決定しました。

「麦の郷、らしいすてきな写真が新しいホームページで見られるようになるのは、もうしばらくお待ちください。」

労働支援部賞



六星舎

触って楽しく、匂いで楽しく、仕事で楽しく、働いて最高!!そんな声が聞こえそうな素敵な笑顔。

子ども支援部賞



ソーシャルファーム もぎたて

なかまと職員で一生懸命育てた玉ねぎが畑に並んでいて、苗を植えて収穫するまでの苦勞と収穫を喜ぶ気持ちがすごく感じられる写真だったため。

地域生活支援部賞



ソーシャルファーム ピネル

麦の郷といえば「地域とのつながり」。西和佐地区・麦の郷夏祭りは20回を数えており、多くの地域の方が毎年きてくれます。この写真は年に1回のこの祭りをホームページで毎回、毎回見れるとはいいですね。

就労支援相談部賞



10月29日の相談支援部会で写真の選定を行いました。生活支援センターからの利用者の製作作品の写真やつれもてで一般就労しているメンバーの作業風景の写真の中から選びました。B型作業所からステップアップして一般就労の挑戦している彼女の写真が当選しました。

障害者就業・生活支援センター つれもて

第18弾『障害者週間 広がれネットワーク』

～みんないっしょに希望のもてる地域づくり～

障害者週間広げれネットワークは、那賀圏域の福祉施設や家族・当事者・地域の人たちが集まり、障害のある人たちが地域でこころゆたかな生活ができる社会を実現するために、毎年「障害者週間」にイベントを行っています。



今回で18弾となる広がれネットワークでは、「みんないっしょに希望のもてる地域づくり」をテーマに、紀の川市役所でアート展や山崎邸で行ったみんなの願いを語る会、職員研修としてあいサポート研修などさまざまなイベントを開催しました。

また、12月16日(日)には貴志川町かがやきホールにてライブと講演も行いました！オープニングでは、つくし医療・福祉センター職員の有志による「Love&Peace」の生バンドや手話サークル「チームサイン」による手話パフォーマンス、講演では和歌山県聴覚障害者協会事務局長櫻井さんの手話による講演がありました。そして最後は、オイカゼさんのライブ、オイカゼさんは、健常の方1名と聴覚障害のある方3名の4名で構成されていて、手話やジェスチャーなどを使うサインダンス『目で聴く音楽』にこだわって、みんなが笑顔になるパフォーマンス

ダンス集団です。歌は勿論、歌詞に合わせた手話とダンスの表現力のあるパフォーマンスはとても引き込まれました♪フアンの人はこちらも今回初めて観た人もオイカゼさんの魅力に引き込まれ、会場は大盛り上がりでした♪また各事業所による出店もあり、会場には、障害のある方もない方も、子どもや高齢の方など老若男女問わず、300名以上の人が集まり一緒に楽しい時間を過ごすことが出来ました！

私は、今回初めて広がれネットワークに参加しましたが、活動を通して、様々な人たちと繋がることができ、この取り組みの大切さを実感することが出来ました。次弾もお楽しみに♪

わされん新人職員研修会に参加して

～障害者権利条約と私たち～

10月26日・27日両日、高野山宿坊赤松院にて、いなほ福祉会の細野建治氏をお招きして2018年度わされん新人職員研修会が実施された。

『私たちが抜きに私たちのことを決めないで』というフレーズのもとに、障害者権利条約は2006年に国連総会にて採択され、日本は国内法の整備の後2014年に批准した。広く障害のある人の権利を謳い、私たちの活動の支えにもなっている権利条約であるが、それは日々の支援のどのようなところとつながっているのだろうか。改めて考えてみようというふうに参加の研修は進められた。シンポジウム「現場で考え

はぐるま和の杜恒例の

秋の一泊旅行(石川の巻)

はぐるま共同作業所 和の杜

はぐるま和の杜恒例の秋の一泊旅行、今年も11月9日(金)～10日(土)一泊二日で行ってまいりました。事前にメンバーから集めたアンケートで今年も行先は『石川県』いやあ今年も速かったですなあ(汗)しかしながら



今『金沢市』は注目の人気観光スポットということでも仲間の自治会を中心に考えた「兼六園」や「21世紀美術館」と山代の名湯をたっぷり楽しんできました。(大中)

秋の紅葉 高野山レク

六星舎

11月17日(土)に和歌山生活支援センターと六星舎合同で高野山日帰りレクに行ってきました。当日の集合時間1時間前くらいから参加者が続々集合。

みんな高野山レクを楽しみにしていたんだなあ、バス等に乗って高野山へ。前日までの雨の天気予報が大外れ、すごくいい天気でした。高野山では壇上伽藍を散策、高野山の素晴らしいところを再発見。昼食には精進料理を



る障害者権利条約』では、3名のシンポジストがそれぞれの実践の根拠を権利条約に見つけて発表した。グループワーク「今の立場で考える障害者権利条約」では、前日に挙げられた権利条約の条項のいくつかについて、参加者それぞれの現場でしている具体的な実践、権利条約を世に広めていくためにできる実践について話し合い、権利条約を身近に感じた。

秋の旅特集

三重県旅行 11月30日～12月1日

はぐるま共同作業所

みんなが待ちに待った恒例のはぐるま共同作業所の一泊旅行。今年も、三重県は鳥羽水族館・伊勢神宮・おかげ横丁・伊賀忍術村に行ってきました。日常生活を離れ、気心の知れた仲間と過ごす時間の中で、観光に楽しい料理に宴会にと、みんな心身共に楽しんだようです。そんな中で、いつもは片時もスマホを離さない

頂いてその後はお決まりの奥の院散策とお土産、買い物タイムであっという間の楽しいレクが終わってしまいました。来年はどこ行くかと、帰りのバスの中でもみんな楽しそうでした。(森 貴孝)

淡路芸術の秋、食の秋

ソーシャルファームピネル旅行

ソーシャルファームピネル

平成30年10月27日(土)～28日(日)の2日間、洲本温泉へ旅行に行ってきました。

当日は、朝から曇り空模様でしたが、みんなに圧倒されたのか？！昼前には青空の下、観光することができました。



淡路での吹き戻し作り体験、あわじ花さじきでの散策、1日目にしてお土産の山でした。夜には、おいしい料理にカラオケ、いろいろな話で盛り上がりあちこちにみんなの笑顔があふれていました。

2日目、大原国際美術館で美術・芸術品に触れて感動を身感していました。鳴門渦潮観光では、船に揺られつつも海の風景・渦潮を間近に観ながら興奮のひと時を過ごしました。帰路につく頃には、疲れもなんのその!! たくさんのお土産と、来年の旅行に思いをめぐらせて、みんな笑顔いっぱい日程を終えることができました。また、来年もみんな楽しんでみましょうね!! (高松 真一)

人が覗き込むように珍しい魚を見たり、控え目な人がすすんでカラオケをしたりと、日頃作業所で過ごす中では見られない仲間の一面や表情も見られ、それがとても印象に残っています。同じ体験を共有する旅行ならではの醍醐味で、こうしてまたお互いへの理解が深まったのでした。(辻岡 裕)



たんぼぼ班旅行

10月、11月で3グループに別れて、和歌山県の紀南へ旅行に行ってきました。田辺市にある秋津野ガルテンでマーメイドを作り、とれとれヴィレッジに泊まりました。コテージタイプの宿泊先は新鮮で、キャンプを

くろしお作業所



しているような感覚でもありました。夕食では海の幸を堪能。2日目はアドベンチャーワールドへ。2018年8月に誕生したジャイアントパンダの赤ちゃんの名前を考え、ケニア号に乗ってサファリを回り、イルカショーも観て：と、満喫してきました。お土産もたくさん、なかでもやっぱりパンダのぬいぐるみが一番人気でした。(川崎 愛香)

第17回和歌山県作業所問題研究交流集会

明日への架け橋 ～障害者権利条約とともに～

2019年2月9日(土)

和歌山市北コミュニティセンター
〒640-8481 和歌山市直川326番地の7
(和歌山市さんさんセンター紀の川内)

9:30 開場・受付
 10:00 開会式 主催者あいさつ
 10:20 ①講演会 パラレルレポートからみる障害者
 権利条約(仮題) 蘭部英夫氏
 ②アニマルセラピー
 12:00 昼食休憩
 13:00 分科会
 16:30 閉会

参加費：一般2,000円 仲間100円 介助者500円
 ※弁当の注文は別途600円要ります
 申込締切：2019年1月31日(木)

■分科会■

- 第1分科会 高次脳機能障害の現場と実践
 第2分科会 ホームにおける高齢化・
 重度化した仲間への支援
 第3分科会 障害者の労働権について考える
 第4分科会 事業所でよく聞く報酬単価ってなに？
 第5分科会 自立訓練の実践からの学びと課題
 第6分科会 相談支援の役割をもう一度考えよう
 第7分科会 B型事業所の現状と課題
 第8分科会 「生活介護」のあり方とは？
 第9分科会 様々な活動を通して
 体験する楽しさ、自己表現を支援
 第10分科会 友だちをつくろう！

※詳しくはわされん会員事業所に配布予定の
 開催要項(申込書つき)をご確認ください

主催：和歌山県共同作業所連絡会(わされん)

助成ありがとうございました



公益財団法人 中央
 競馬馬主社会福祉財団
 様より助成いただき、
 プリンターを購入いた
 しました。

従来使用していたプ
 リンターの代替機にな
 りますが、以前のものより処理スピードが上がり、
 ランニングコストも低くなり、大変助かっています。

また、白いインクをオプションで付けさせても
 らったことにより、濃い色の紙への印刷もできるよ
 うになり、新しい商品の提案
 を始めることができました。

新しい機能を楽しみなが
 ら、収入アップにつなげてい
 きたいと思います。

ありがとうございました。
 (麦の郷印刷 長谷 理世)



イラスト：KAN-Z

第42回

障害児者宗族のつながりをたぬる

文化祭

テーマ

みんなでつながろう 笑顔の文化祭

紀北支援学校高等部3年 出口 伸一



紀北支援学校高等部3年 福澤 伊桜里



紀北コスモス支援学校高等部2年 橋本 咲希



和歌山ろう学校高等部3年 中井 玲菜

交流しクレーション
 ゲスト
 手話エンターテイメント
 猪信団 oioi



和歌山県立体育館
 駐車場が少ないため公共の交通機関をご利用下さい

入場無料 参加協力券 300円

- ・ステージ発表(11:00~13:30)
- ・交流レク(13:40~14:20)
- ・エンディング・抽選会(14:30~)
- 作品展示(10:30~15:00)
- 催し(10:30~14:00)
- ・自主製品/頒贈店/バザー
- ・体験コーナー/相談コーナー
- ・遊びのコーナー/マッサージコーナー

※詳しい企画がいつはります

2019年 3/3日
 10:00~15:00

主催 第42回障害児者宗族のつながりをたぬる文化祭実行委員会
 お問い合わせ/和歌山県立和歌山ろう学校 和歌山市山崎山崎3丁目1-73号
 TEL (073) 424-3276 FAX (073) 424-0310

後援 和歌山県/和歌山県教育委員会/社会福祉法人和歌山県社会福祉協議会/和歌山市
 和歌山市教育委員会/社会福祉法人和歌山県社会福祉協議会/岩出市/岩出市教育委員会
 社会福祉法人岩出市社会福祉協議会/海南市/海南市教育委員会/社会福祉法人海南市社会福祉協議会
 紀勢野村/紀勢野村教育委員会/社会福祉法人紀勢野村社会福祉協議会
 NHK和歌山放送局/毎日新聞和歌山版局/エフエム和歌山/産経新聞社
 株式会社テレビ和歌山/ニュース和歌山(株)/毎日新聞和歌山支局/読売新聞和歌山支局
 一般社団法人和歌山県建築士会/一般社団法人和歌山県作業者会
 一般社団法人和歌山県社会福祉士会/公認社団法人和歌山県理学療法士協会
 わがやま新聞/和歌山弁護士会/株式会社和歌山放送/株式会社和歌山リンク新聞社